



# 尼崎城下中在家町町並み復元絵図のデジタルデータ化（自治体・NGOとの協力による歴史資料保全事業）

中村，光夫

---

**(Citation)**

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 3(平成16年度事業報告書):72-73

**(Issue Date)**

2005-03-31

**(Resource Type)**

report part

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002205>



# 尼崎城下中在家町町並み復元絵図のデジタルデータ化

尼崎市立地域研究史料館課長補佐 中村光夫

## 1 中在家町について

中在家町は尼崎城下の町人居住区8町のひとつで、現在の尼崎市中在家町と西本町にわたる地域に次ページ図1に示す街区が存在した。図の右端の西大手橋は尼崎城に架かる橋である。町の現状は西町筋と中筋の間を国道43が東西に貫通しているが、残りの町割りは往事の姿を残している。

## 2 復元絵図について

「町並み復元絵図」の手書き原図は、公手博(くで ひろし)氏が冊子形態の「中在家町町絵図」(慶応二年 史料館所蔵梶廣子氏文書)から一枚物の絵図に書き起こされたものである。

冊子には、「壱番…布屋惣八組」等の「組別データ」と「屋敷別データ」が記載されており、それぞれ表1、2のようにデータベース化されている。

冊子形態の「絵図」に記録されたデータは、表1、2のとおり東から西に、東西筋に沿った直線的なデータでしかなかったが、公手氏の作業に

よってブロック内さらにはブロック間を越えての平面的な位置関係が初めて明らかになった。

手書き絵図に基づく画像データの作成・修正には、本年度も松田敦志氏が当たり、データの原史料校正を公手氏・中村が担当した。さらに各ブロック図を検索する画面(次ページ図1参照)を松田氏が作成したことにより、町内の任意のブロックを視覚的に選べるようになった。

## 3 デジタル画像の利用法と今後の対応

デジタル画像の利用法は次ページに紹介した。

復元絵図のデジタル化は、第一段階としては広く市民・研究者の情報・研究成果等を集積することを目指してインターネット利用が可能なデータへの転換を目的とし、今回ほぼ完成に至った。

さらに、利用促進のためにはインターネット上で公開するとともに、「デジタル絵図」の完成とその利用法の周知を図らねばならない。今後、市民向け講座等を企画していく方針である。

表1 組別データ

通り名称	横町表示	ID	組番号	組名表記	間口間数(1)	間口(2)	米高	米高/間口	役米	役米割り方	その他表記
西町筋	街道筋 - 烏屋辻子	1	壱番	布屋惣八	二十間半	20.50	1.0250	1.0250	4	間割	役米四ツ間割之内
西町筋	烏屋辻子 - 梅之水通り	2	貳番	岸田屋藤兵衛	二十八間	28.00	1.6500	1.6500	0	-	五間大工地 泉屋
西町筋	梅之水通り - 魚之店通り	3	三番	八百屋太兵衛	二十九間半	29.50	1.3125	1.3125	7	-	
西町筋	魚之店通り - 火之見通り	4	四番	鯛屋吉右衛門	十五間半	15.50	0.5258	1.3125	4	-	

表2 屋敷別データ

屋敷番号	組番ID	人名1	名	表口間数1	表口間数	裏行間数1	裏行き間数	備考
1	1	津山屋弥兵衛	-	六間半	6.500	拾四間	14.000	
2	1	生瀬屋辰哉	-	四間	4.000	右同断	14.000	荒牧組大庄屋定宿
3	1	布屋惣八	木村いそ	同五間	5.000	右同断	14.000	三反田組大庄屋定宿
4	1	油屋とき	-	間口五間	5.000	裏行同断	14.000	
5	2	久下屋長哉	弥兵衛	同三間	3.000	裏行八間	8.000	
6	2	泉屋弥兵衛		同二間半	2.500	右同断	8.000	
7	2	今津屋治兵衛		-	-	裏行六間	6.000	
8	2	久下屋儀兵衛		同五間	5.000	裏行九間	9.000	
9	2	-		-	-	五間	5.000	8奥
10	2	泉屋利兵衛		間口五間	5.000	裏行拾四間	14.000	
11	2	此所大工屋舗		同五間	5.000	-	14.000	
12	2	-		間口三間	3.000	-	14.000	11西側

